

# 山行報告書

(2014.03.26改訂)

日時	2015年 9月17日(木)～21日(月)		
山名	劔岳・八ツ峰・チンネ左稜		
CL	高野	参加者	北山(Back Country Club-ef)
(コース)	<p>17日 博多駅8:04⇒新大阪駅10:34; 10:48⇒富山駅13:56; 14:45⇒立山駅15:48; 16:00⇒ 美女平16:07; 16:10⇒室堂17:00⇒雷鳥平17:40 テント泊</p> <p>18日 雷鳥平7:00⇒劔御前小屋9:00⇒劔沢小屋10:00⇒劔沢雪渓10:20⇒長次郎 谷出合12:00⇒熊の岩15:00 テント泊</p> <p>19日 熊の岩7:00⇒長次郎谷左俣⇒長次郎谷右俣⇒長次郎のコル12:00⇒長次 郎の頭⇒池ノ谷尾根の頭14:00⇒長次郎の頭⇒長次郎のコル⇒(北方稜線) ⇒劔岳17:00⇒前劔18:00⇒劔山荘19:30:泊</p> <p>20日 劔山荘8:00⇒劔御前小屋9:30⇒雷鳥平11:00⇒みくりが池温泉⇒12:00:入 浴、食事: 13:00⇒室堂13:30; 13:40⇒美女平14:30; 15:00⇒立山駅15:07; 15:26⇒富山駅16:34 サンロードホテル泊</p>		
(コメント)	<p>17日 8時04分発の新幹線で中継点である新大阪に向けて出発。私とK氏ともすこ ぶる元気で、これからの山行の成功を誓う。 出発早々、新大阪に到着するまですることがないので、般若湯を飲みながら 到着まで大いに盛り上がる。出発地の博多は晴天であったが、関西に近づくほ ど曇り、しまいには雨天となり、誰かの恨みがそうさせているのではと二人の結 論に達した。 なんやかんやで新大阪に到着、10数分の待ち合わせで、金沢駅行きのサン ダーバードに乗換で席を着くや否や金沢近くまで船を漕いでいた。 金沢駅からは今話題の北陸新幹線に乗り20分ほどで、立山・黒部アルペン ルートの入口、富山駅に到着、2年前に来た時の駅、駅前がすっかり変って驚 いた。 富山駅から室堂までは、電鉄富山駅から電車で立山まで、立山から美女平 まではケーブルカー、美女平から室堂まではバスを乗り継いで室堂へ17時に 到着、今日のテント泊である雷鳥平へ急いで向いテント設営した。テントの中 で夕食をとりながら明日からの行程の確認を行い、明日からのきつくなるだろ う山行のため、早い時間に就寝した。夕食の途中から雨がテントをたたきはじめ、 就寝時には激しくテントをたたき、その音でなかなか寝付けなかった。</p> <p>18日 前日の激しい雨が朝になるとすっかり上がり晴天の中、最初の目的地劔御 前小舎に向けて、予定より2時間遅れの7時に出発、雷鳥平から見える劔御前 小舎は、はるか高い所に見え、あの場所まで登るのかと思うと、装備一式25kg のザックでのこれからの行程の大変さが想像できた。 何回もの休憩を取りながら漸く2時間かけて劔御前小屋へ到着、そこからの 劔岳一円の峰々の素晴らしい景色は圧巻であった。</p>		

劔御前小屋から劔沢を経て劔沢雪渓を下り長次郎谷の出合まで一気に下った。出合に向けて歩いている途中で、アクシデントが起き、それからの山行に大きな影響を与える結果となった。そもそも雪渓に入る時点でアイゼンを付けるべきなのを雪渓の傾斜が緩いからと、そのまま登山靴で雪渓を下ったため、滑って転倒した際左足首を

巻き込んだため、左足外側に痛みが走り捻挫状態になってしまった。幸い軽症で済んだが、左足外側に重心をかけると痛みが走り、以後細心の注意を払いながら足を運ぶことにした。

長次郎谷から熊の岩へは、傾斜のきつい雪渓を登っていくが、八ツ峰の下部から上部への景色の移り変わりはここを苦労して登った者が得られる劔の贈り物である。熊の岩へ向かって雪渓を登っている最中に、天候が急変雨が降り出したが、結果的には天気予報どおりであった。

熊の岩へは重荷を背負っての雪渓の登りは、予想以上にきつく、3時間かけての到着であった。到着後、八ツ峰VI峰Cフェースのクライミング予定であったが、雨のため中止とした。早々にテント設営し、明日以降の行動予定を確認、19日八ツ峰VI峰Cフェースクライミング後、三の窓へ移動、テント設営後チンネ左稜クライミング、クライミング終了後三の窓に戻りテント泊、翌20日北方稜線から劔本峰へ向かうこととした。

19日

朝6時に起きると小雨ではあるが一定のリズムをもってテントに降り音を立てていた。前日からの雨の状況と現在の状況での判断から、VI峰Cフェースは諦めチンネ左稜だけに絞りこんだ。

朝食を済ませ7時にチンネに向け熊の岩を出発、シュルンドに気を付けて雪渓に渡り、アイゼン、ピッケルを駆使しながら長次郎谷の雪渓を登り始める。急な雪渓の登りと重荷により数歩登ってはいは休むを繰り返しながら、時間ばかりが過ぎて行った。最初は長次郎谷の左俣を遡上していたが、目的地を長次郎の科尔としていたので、途中から右俣に向けてザレ場をトラバース、ガリーを下る等して右俣に到着、長次郎の科尔に向けて遡上、科尔到着は12時となり時間がかかりすぎた感があった。

長次郎の科尔からは三の窓に向けて北方稜線を長次郎の頭方面へ縦走したが、長次郎の頭を越えた時点で14時となった。チンネ左稜取付時刻のタイムリミットを14時としていたため、クライミングにかかる時間を考慮すると、このまま三の窓に向かうことを断念、劔岳本峰に向けて北方稜線を逆戻りした。

本峰に到着したのは17時、下山時間を考慮すると途中でヘッデンが必要な状況であった。本峰から富山方面を眺めると夕陽と雲海の組み合わせが息をのむような景色で感動した。重荷のザックで振られることがあるので本峰からの下山に多少の不安があったが、難なく通過した。ヘッデンの着用は前劔を通過している途中から必要になった。ヘッデン使用でのルートファインディングは印があれば良いが、無い所は周囲状況からの判断で進んでいった。

劔沢でのテント泊を予定していたが、時間的に無理との判断から、一番近い劔山荘での泊とした。劔山荘には19時過ぎに到着、山行時間12時間を超える山行であった。劔山荘はSW最中であったので、満室状態であったが、どうにか寝床が確保できゆつくり就寝することができた。

20日

劔山荘前でラーメン朝食を済ませ8時劔御前小舎に向けて出発、途中私のザックの肩ベルトが交互に切れたアクシデントがあったが、幸いカナビラで応急措置をして事なきを得た。北方稜線縦走中に起きたらと考えたら冷や汗ものであった。

劔御前小舎から雷鳥平の眺めは、色とりどりのテントで埋まり、私たちがテ

ント泊した状況とまるで違った景色であった。雷鳥平への下りでは、下から登ってくる登山者がSWが多かったが、皆2時間かかる登りで体力を消耗している様子であった。

雷鳥平から室堂への道のりは最後の上り階段が控えており、これが堪えたの

費用概算

(交通費) 交通費：約42,000円／1人  
(その他) 宿泊代：約12,000円／1人

